私は今

「知情ＩＴ勉強会」を主催して

知能情報工学科Ｈ27年卒　畑野亜麻衣
〃　越智　郁

【はじめに】

はじめまして！平成27年に知能情報工学科を卒業、平成29年に医工学研究科・理工学研究科（現在の創成科学研究科）を修了した畑野と越智です。今回は、私たちが企画・運営をしている「知情IT勉強会」について、経緯やどのような想いをもって発足したかについて紹介します。

ステッカー

【経緯】

まず、発足の経緯を説明するにあたり、私たちのことをお話します。

畑野亜麻衣は、現在コニカミノルタ㈱にて医療機器の画像系の研究開発に携わっています。入学当初はＣ言語って何？？新しいゲーム？？という状態からスタートした学生でした。学部時代、畑野が感じていたことは、「勉強したいけれど、何をしたらいいかがわからない」「専門科目の講義を受けているが、将来どのように役立つか、社会でどのように活用されているのかが想像しづらい」ということでした。また、部活動などに所属していたとしても同じ学科の先輩がいなかったり、少なかったりで先輩とのつながりもあまりなく、必然的にお話しする機会もあまりありませんでした。

越智 郁は現在、㈱セキュアスカイ・テクノロジーにて、Webアプリケーションの脆弱性診断業務に携わっています。高等専門学校を卒業後、３年次から山口大学の学生となりました。もともとはネットワークエンジニアになりたいという目標から編入学をしたため、将来像が全く描けないということはありませんでした。しかし、講義を受けるだけの毎日に対する焦りや、編入学前に持っていた大学へのイメージとかけ離れた生活に閉そく感をもっていました。

・二人の転機

そんな私たち二人の転機は、学部４年のとき「セキュリティ・キャンプ全国大会2014」という、サイバーセキュリティについて４泊５日の合宿形式で実践的に学ぶ場に参加したことでした。書類審査を通過した全国各地の約40名の学生や、コンピューターサイエンスやサイバーセキュリティの最前線で活躍される講師や運営の方たちと出会い、様々な経験を通して、自分たちがいかに閉じた世界で生活していたかを実感しました。この経験を経て、私たち二人は積極的に外部の勉強会やイ

ベントに参加するようになりました。

・二人で外部の勉強会に参加

私たちが外部の勉強会に参加できたのは、二人一緒だったからだと考えています。当時の私たちにとって「外部の勉強会やイベント」は興味があっても非常にハードルの高いものでした。

学生時代をふり返ると、勉強会に対して具体的に何をするのか想像がつかなかったこともあり、「社会人や知らない人だらけ」、「内容に全くついていけず迷惑をかけたらどうしよう」と不安を抱いていました。また、物理的なハードルも非常に高いと感じていました。勉強会やイベント会場は県外が多く、参加するために新幹線や飛行機で移動しなければなりませんでした。近くても福岡、内容によっては関西（兵庫）・関東（東京）です。参加した勉強会やイベントはどれも楽しく有意義だったと感じていますが、金銭面や時間的に大変だったのも事実です。

・二人が感じたこと

このような経験から、自分たちと同様に「“勉強会に興味はあるが様々な面からハードルが高い”と感じている学生は一定数いるのではないか」、「“勉強したいけどどうしたらいいいかわからず迷っている”そんな学生の夢や将来への支えとしても勉強会は活用できるのではないか」。そういった学生にこの“山口宇部”で場を提供できないだろうか。そんな思いが強くなり、企画を始めました。

【活きた経験】

企画から初回開催までの約半年、社会人となった私たちは互いに、新人研修や業務に追われる日々を過ごしていました。それでも「知情IT勉強会」を形にできたのは、在学中に「知能情報女子のための茶話会（平成27年度に常盤工業会から助成を受けて活動）」を企画した経験が活きていると考えています。

当時は知能情報工学科の女子学生の割合はまだまだ少なく、ちょっとしたフォローがあると学生生活がしやすいのでは、という思いからこの茶話会が始まりました。こちらも畑野が発起人となり、越智やその他の学生も含めて運営をしていました。現在でも、後輩たちに引き継がれ４年目になります。この企画は学科の先生方と連携して立ち上げたのですが、このときの経験を「知情IT勉強会」の立ち上げにも生かしました。

【勉強会について】

このような経緯や経験をもって、「知情IT

勉強会」が発足しました。この「知情IT勉強会」には、３つの大事にしているコンセプトがあります。「だれでも気軽に」「初学者向け」「リアルである」です。

①「だれでも気軽に」

外部の勉強会はハードルが高いと思っている学生さんへ最初の一歩の経験にしてもらいたい。また、山口大学の工学部で開催することで遠くまで行かなくても学べる場にしたい、という経緯から生まれた思いを反映させています。

②「初学者向け」

私たち自身が、“全くついていけずに迷惑をかけたらどうしよう…”という不安を感じていた経験から、「初めてそのテーマに触れるという人でも楽しめるように」ということを最も意識しています。講師の方にもお願いをして、簡単に楽しく学べるような工夫を毎回行っています。

③「リアルに」

「知情IT勉強会」では「知能情報工学科の卒業生」に限定して、講師の依頼をしています。大学での各種講演は著名な方によるものが多く、学生時代の自分を思い返すと、等身大の未来像が想像しづらいと思うことがありました。著名な方への講演依頼は大学側で実施されていることから、現時点では等身大の将来像を描くお手伝いになればと「知能情報工学科の卒業生」に講師の依頼をしています。

また、勉強会の質としては「セミナー」と「ハンズオン」（実際に手を動かして学習する手法）の実施にこだわっています。「セミナー」では、ITと社会の関わりや、社会人になって感じたこと等、ざっくばらんに就活とは違う視点から話を聞ける場としています。「ハンズオン」は、卒業生が関心あることや実際の業務に関することを、実際にみんなで一緒に体験してみよう、という場です。在学生にとっても、参加の卒業生にとっても他分野のことを聞ける、体験できる、というのはそれだけで新鮮な経験になると思います。

例えば第２回では、流行りの「ディープラーニング」をテーマにハンズオンを行いました。言葉を知っていても実際に触って学習したいと思ったとき、何も知らない状態で環境をつくるのは意外と骨が折れます。演習環境の作り方、その他の資料はできるだけ配布して、後日自分でやりたいと思った時の手助けになればと思っています。

【さいごに】

企画当初こそ、畑野と越智の２名と学科の先生方だけで始まった「知情IT勉強会」。第１回では、企画も運営も講義も自分たち２人だけでしたが、２回目からは運営と講義にＯＢの方が参加してくださるようになりました。この記事が本誌に掲載されるころには、第３回も終了していると思いますが、３回目では学生スタッフも加わり、また講師を運営と切り離して実施しました。コンセプトを大切にしつつ、新たな試みを勉強会に盛り込んでいくことで、徐々に変化させていっています。

よりよい勉強会になるよう今後も努力していきます。私たちの活動に理解、協力してくださっているすべての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

セミナーの様子